

校長室だより

☆教育目標☆

自ら考え判断し、進んで行動できる富中生
〈生活心得〉 時を守り 場を清め 礼を正す

令和元年12月23日発行 No.17

富岡市立富岡中学校 校長 中村 喜雄

☆☆まちがいを生かす☆☆

教室はまちがってもいいところだ

みんなどしどし手をあげて
まちがった意見だって言おうじゃないか

まちがったことを恐れちゃいけない
まちがえたことを笑っちゃいけない

まちがった答えやまちがった意見を
ああじゃない こうじゃないと
みんなで出し合う中で
本物を見付けていくのだ

そうして みんなで伸びていくのだ
.....

これは、私が小学校の6年生の学級担任の時、教室に掲示していたものです。当時は、子どもたちの主体的な学びを育もうと思い、正面の壁いっぱい、大きな字で書いた模造紙を貼り、子どもたちがいつでも意識できるようにしていました。自由な発言や様々な考えを大切にし、それを認め合う学級、一人一人の立場を尊重し、お互いの良さを見い出す学級、自分に厳しく他人には思いやりを寄せ合う学級、まちがいやつまずきを恐れず、それを糧として共に深め合い日々成長できる学級、そういう学級を願い、子どもたちとともに望ましい学級風土づくりに力を注ぎました。しかし、子どもたちの中にはまちがえることは恥ずかしいという概念をもっている子が

がいて、なかなか詩のようにはいきませんでした。

十数年前、田中耕一さんのノーベル賞受賞のニュースがありました。その時のエピソードは、我々に貴重な示唆を与えたように思います。特に、「試薬を使った時の手違いから起きた。普通の人なら間違えたら捨ててしまうところを、もったいないのでそれを試したことが発見に結びついた」という点、言い換えれば“まちがいを生かしている”という点です。御本人は、“棚からぼた餅”と言っていましたが、もちろん、それは思わぬものを偶然に見出す能力と努力があつてのことでしょう。“全く偶然の賜物”は、とにかく間違い（失敗）を生かしたからで、その取り組む姿勢こそが大事だと思います。“まちがい”は、成功を生む大切なチャンスとなります。とすれば、チャンスはいつでもどこでもあるわけで、生かさない手はありません。それを、生かせるかどうかは、その人に意識の持ち方、日常的な努力やその積み重ねにかかわってくるのです

“教室はまちがえるところ”という意識、“まちがいを生かそう”という姿勢が、子どもたち一人一人の成長に大いに繋がっていくものだと考えます。



